

## 期待 61-Negative memory bias の実験

Kark & Kensinger (2019) の簡単な紹介である。この論文は不快な刺激の記録後の扁桃核と視覚領野の安静時機能結合 rsFC が negative memory bias の個人差に関係することを報告した。課題は情動的（正、負、中性）刺激の記録と 24hr 後の再認で、fMRI の計測が記録と再認時と、安静時の機能結合 RSFC の計測が記録前後と再認前にある（上図）。ここでは負（不快）な記憶について述べる。負の記憶の成績は  $d' = z(\text{hit rate}) - z(\text{false alarm rate})$ , negative memory bias = (negative  $d'$  - positive  $d'$ ) である。また、記録前後の RSFC の変化  $\Delta$

### A Scans used for current data analyses

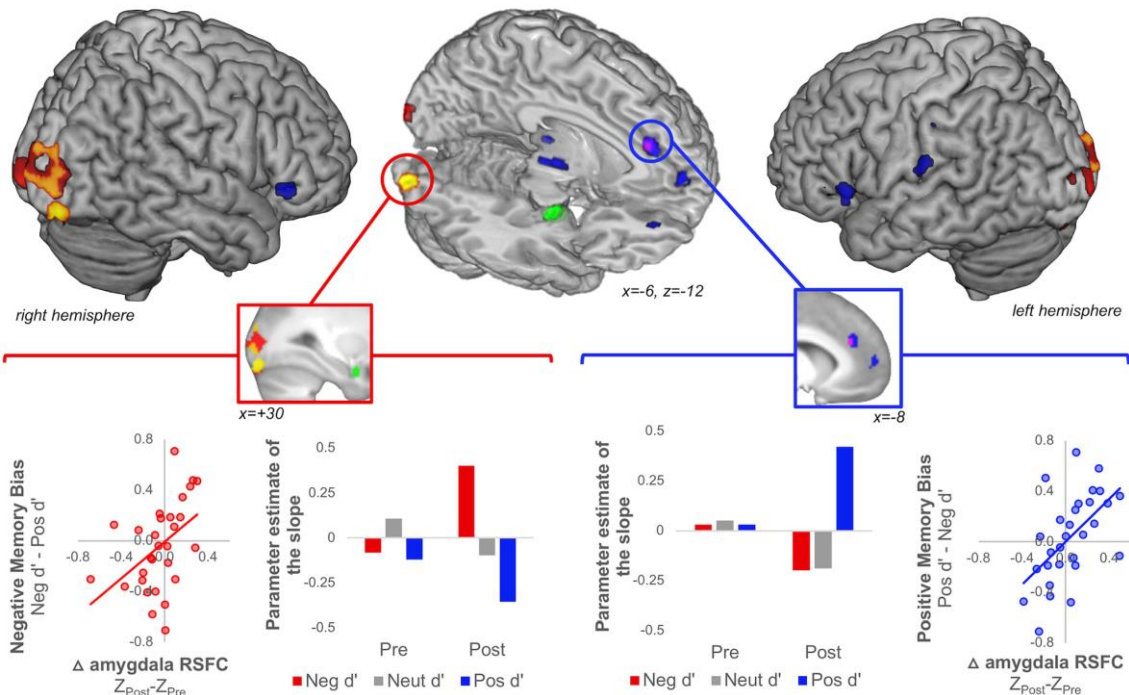


$\Delta \text{RSFC} = Z_{\text{post}} - Z_{\text{pre}}$  が問題になる。

結果が下図で、左半分の negative memory bias について

### Post-encoding $\Delta$ in resting amygdala connectivity correlated with:

- Negative memory performance
- Positive memory performance
- Negative memory bias
- Positive memory bias



て紹介する。右扁桃核（緑）の RSFC の増加が negative  $d'$ （赤）と negative memory bias（橙）と相関したのは視覚領野だった。 $\Delta$  RSFC と negative memory bias の個人差は正の相関を示した。 $\Delta$  RSFC が大きい参加者ほど bias が強い（下左）。棒グラフは RSFC と  $d'$  の相関の傾き。Negative  $d'$  で高い値。RSFC は記録後の時間によってどのように変わるのだろうか。右の正（快）の情動の記憶については省略する。

Kark, S.M. & Kensinger, E.A. J. Neurosci., 39:3130-3143, 2019